

行天豊雄著「ポピュリズムが世界経済を狂わす」巻頭インタビュー、選択、
2011年9月号、選択出版 2011年9月1日発行を読む

ポピュリズムが世界経済を狂わす

1. ポピュリズムの本質というのは、大衆の欲するところには従うが、大衆が真に必要なとすることには従わないということだ。
2. 米国、欧州、日本と、いま経済的に苦境に陥っているところは全て同じ構図に苦しんでいる。
3. つまり、ポピュリズムが政治を墜落させ、それが経済の悪化を招いているという構図だ。
4. 中国のような管理統制国家の方が、これまでは少なくともうまくやってきたじゃないかという不信感も手伝い、民主主義、つまり責任感のある有権者が政治を選択するシステムがもたなくなりつつある。
5. その意味では民主主義そのものの危機、大きな試練だといえよう。

[コメント]

票を取りたい、つまり自分や自分たちの政党が選挙で当選したいがために、有権者に対して耳触りのよいことを並べて実際にも行い、税収以上の支出をし、国や自治体を赤字、破綻に陥れることがポピュリズム。高速道路の無料化、子ども手当の支給、高校生の授業料無料化などを国家財政が破綻の時期に行えばポピュリズムと言わざるを得ない。8年前のスペイン総選挙の時にサパテロ候補は「主婦手当」を公約にして、アスナール候補の投票日前日の不正発覚のため思いがけず当選を果たしたが、さすがに当選後は「主婦手当」を実行せず、今日に至っている。サパテロ候補の「主婦手当」の公約は初めからリップサービスとわかっていた国民は、誰もその未実施を責める者はいない。日本政府の財政支出の中で国家や自治体を破綻に追い詰めているポピュリズムにあたるものは何かを真剣に考えたい。その意味で、行天豊雄氏の教えは日本の国や自治体にとって極めて有難い。